仕事がわかる！
業界図鑑
vol.59

今、多くの地域で若者の力が求められている！

地域活性化に関わる仕事

取材・文／伊藤敬太郎　イラスト／桔川 伸

地域活性化は国レベルの重要課題！若者が働くチャンスも増えている

自分が生まれ育った地元を元気にしたい！都市部よりも地方で働くことに魅力を感じる！そんな高校生は決して少なくないはず。人口減少社会に突入し、地域活性化が日本全体にとっても重要課題になっているなか、地域で働くチャンスも拡大しつつある。どんな仕事が注目されているのか、まとめて解説しよう！

NPOスタッフ

まちづくりの企画・立案や地域で活躍する人材の育成などに取り組むNPO（特定非営利活動法人）には、地域のために主体的に働く若者が多数集まっている。地域活性化系の社団法人やソーシャルベンチャー（社会的企業）も同様だ。

コンサルタント

まちづくりや地域ブランディングに関して、全国各地の行政機関などに提案する仕事。マーケティングなどの理論と各地の成功例の分析・研究をベースに、その地域に合った改革案を示し、具体的な計画の立案や、実行のサポートなどを行う。

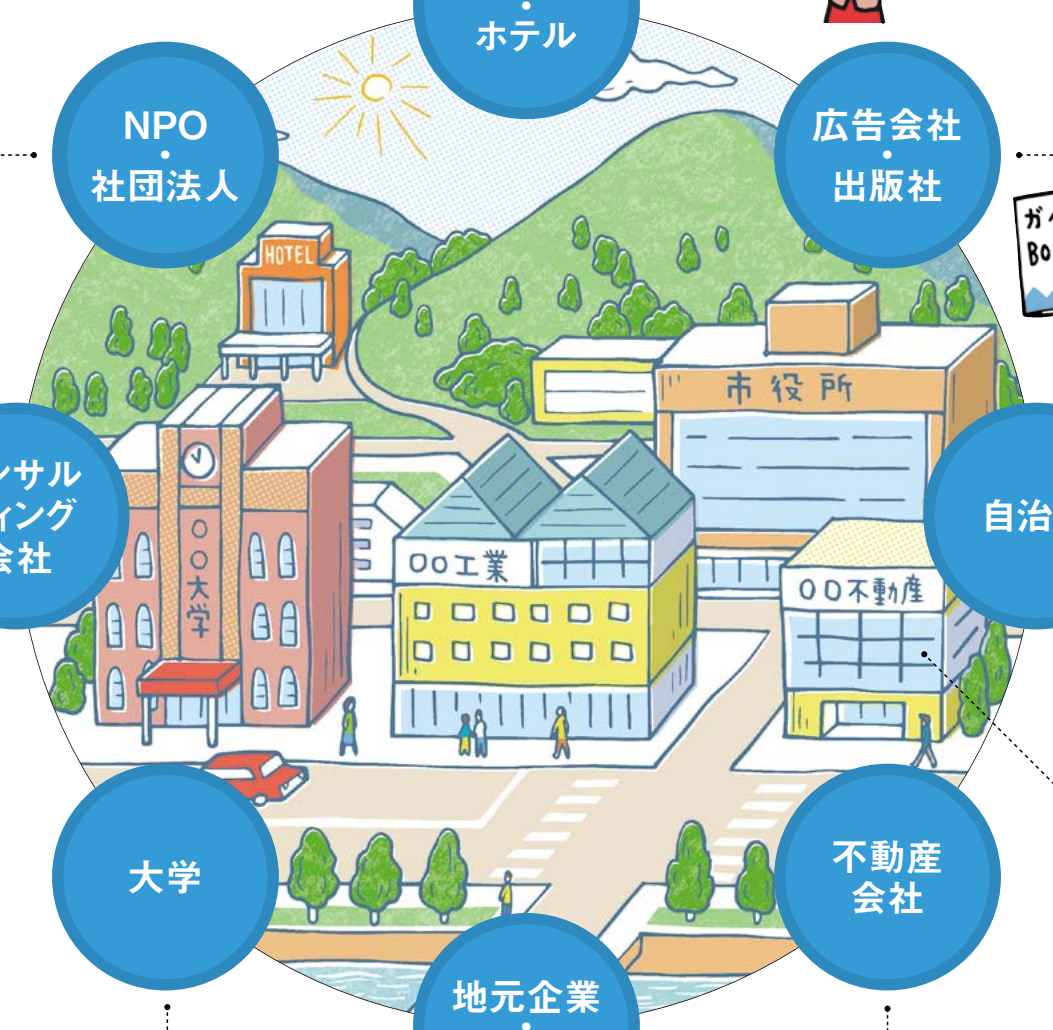
大学教員

最近は、大学に地方創生系の学部・学科が増加。これらの学部・学科の教員も地元の活性化を支えるキーパーソンだ。地域が抱える課題の分析・研究や新産業のアイデアの発案、地域で活躍できる学生の育成など、幅広く地域に貢献する。

地域活性化のカギを握る産業の一つが観光。旅行会社やホテルは、地域の行政や企業とも連携しながら、新たな観光資源を発掘し、魅力的な観光プランを提案・実現している。日本全国や海外に地域の魅力を発信する役割も担う。

ツアープランナー

旅行会社などで、地域の魅力を活かしたツアーを企画する仕事。最近は、旅先での体験や学び、地域の人々との交流を重視した「ニューツーリズム」が注目されており、ツアープランナーの発想力・企画力がますます重要に。



観光を盛り上げるには、地域の特色を対外的にアピールすることも重要。広告会社は地域の魅力を効果的に伝えるブランド戦略を企画し、幅広く広告展開する役割を担い、ガイドブックやタウン誌の出版社は地域の情報を発信する役割を担う。

地方公務員

都道府県や市町村の都市計画課、観光課、地域振興課、まちづくり課などで働く地方公務員は地域活性化の中核となる存在。地元の住民や企業、NPO、コンサルタントなどの民間の力をとりまとめ、さまざまな政策やインフラ整備を実現していく。

鉄道会社

鉄道会社には沿線の都市開発やまちづくりに携わる部門も設けられている。行政、不動産会社、建設会社などと連携して駅前の開発に取り組み、その地域に住む人々や買い物客、観光客などを増やすことに大きく貢献している。

建設会社

大手ゼネコンなどでは、単に建物を造るだけでなく、行政や不動産会社とも連携し、地域を再生させる都市計画から携わることも多い。地域の特性を活かしつつ、全体の景観や機能を改善するプランを練り上げ、新たな街を作り上げる。

地元の土地や建物の有効活用に取り組むのが不動産会社。大規模な都市開発に携わる会社もあれば、各地で増えている空き家対策に携わる会社も。

●地域活性化の主役は地元の人たち！

地元の中小企業や商店街、農業・漁業といった一次産業で働く人たちは、地域活性化のいちばんの担い手。これら地元の人々が大切に受け継いできた地域独自の資源を活かした産業や特産物などが、行政、NPO、コンサルタントなどとの連携によって発掘されたり、見直されたりして、新しい産業やビジネスに結びついていくことも多い。

最新の業界事情

地域おこし協力隊など国の取り組みも活発に

人口減少社会に突入した日本では、若者の減少と高齢化が進む地方の再生は非常に重要なテーマ。そのため国の「地方創生」に向けた取り組みも活発だ。自治体への交付金など経済面での支援にとどまらず、地方創生やまちづくりをテーマとした国立大学の学部・学科の新設、地域活性化を担う人材の都市部から地方への移住を促進する「地域おこし協力隊」（総務省）など、人材育成に関する取り組みも多角的に進められている。この分野は、自治体はもちろん、NPOや企業などの民間と連携した動きも多い。

この職業に就くには

この仕事に就くためには、特に学歴や資格は必要ない。大事なのはむしろマインド。「決まったやり方がある仕事ではないので、変化の激しい環境を面白いと思えるかどうかがポイントですね」と瀬沼さん。高校・大学時代からインターンシップやボランティアで活動に参加するチャンスも多いので、関心があるならまずはやってみて適性を判断しよう。

職種 PICK UP!!

NPOスタッフ

NPO法人ETIC.（エティック）
ローカルイノベーション事業部
コーディネーター
瀬沼希望（のぞみ）さん（29歳）

新潟県立小千谷高校、新潟大学経済学部卒業。大学1年から3年にかけて、地元新潟でETIC.のパートナー団体でのインターンシップを経験し、地域の中小企業支援に関わる。その後、新卒でETIC.に就職し、ローカルイノベーション事業部に所属。現在に至る。

人を育てることを軸に地域社会の活性化に貢献

ETIC.は起業家型リーダーの育成を通して、多様な社会課題の解決に取り組むNPO法人。日本全国のパートナー団体や自治体と連携して、地域活性化にも貢献している。

瀬沼さんは、地域の次世代リーダーの育成や、若手リーダー候補と地域をつなぐ役割を担うローカルイノベーション事業部に所属。全国各地を飛び回り、新しい産業・ビジネスの創出や人材育成の仕組み作りに関わる提案などを行っている。

「訪れたことがない都道府県は2県くらいですね（笑）。地域に若い人が入ってくる場合、うまく溶け込むには受け入れ側の体制作りも重要。私は主に行政やパートナー団体とのやりとりを通して、その部分の提案に関わっています。各地のさまざまな成功例・失敗例を知っていることが、私たちの強みなんです」

地域の中小企業経営者には、「地元全体を良くしたい」という強い志をもっている人が多い。一方で、人材不足などの課題は山積み。高校・大学時代から、自分の裁量でビジネスを行う中小企業経営者に魅力を感じていた瀬沼さんには、その支援ができることも大きなやりがいだ。

「各地で出会う人たちは新しいことに挑戦しているイキイキとした人たちばかり。『ウチの地元には何にもない』と感じる高校生も多いかもしれませんが、何にもない地域なんてありません。地元の魅力ある人や企業を、地元の高校生にももっと知ってほしいなって思いますね」

瀬沼さんの「一日」

月2～3回は地方へ出張。東京のオフィスにいるときは朝9時半～10時くらいに出社し、進行中のプロジェクトや新たな企画に関して、内部のスタッフや外部の関係者と終日何本もの打ち合わせ。退社は19時ごろ。